

給食会たより

令和4年度第12号
(公財)熊本市学校給食会
R5.3.31 文責：本郷



キャベツ圃場視察

西区域山地区にあるキャベツの圃場視察を行い、JA熊本市キャベツ部会副部会長の下村さんとJA熊本市西南営農センターの鶴田さんに

【下村さん】話を聞かせていただきました。

- ・キャベツ部会は現在52人で25haの圃場を有し、11月末から6月初旬(4~5月がピーク)に8玉10kgを7万ケース収穫するのが目標。
- ・下村さんはキャベツが主だが、6~10月には同じ圃場で稲作を行う。圃場に一度水を張り、ワラを入れるのはキャベツの土作りにも有効。
- ・季節に応じた品種のキャベツを栽培。4月の給食に納入する品種は「春ごろも」で、11月にセルトレイに播種し、12月に畑に作付ける。
- ・作付けは定植機を使って2列ずつ植える。
- ・キャベツは最初に外葉ができ、次に、真ん中に結球ができる。その結球の中に次々と葉が巻いて結球が膨らみ、収穫となる。
- ・収穫は根元を包丁で切るという手作業で、一番たいへん。特に、雨が降ると一気に玉が生長し、大きくなり過ぎると割れが出るので、午後1時まで選果場に納品という時間的縛りの中、次々と収穫・出荷しなければならないこともある。
- ・作付け後に除草剤、虫予防に殺虫剤、病気予防のために農薬を散布する。
- ・カラス、鴨、ヒヨドリなどの鳥からキャベツを守るために、糸を張ったりもする。



【作付けられた圃場】



【結球ができ → 膨らんでいく】

収穫体験をさせていただきました。生長したキャベツを少し斜めに傾け、外葉を1枚折って茎が見えるようにし、土のすぐ上の茎の部分を包丁で切った後、外葉を2・3枚外します。

収穫したキャベツを縦に切ると、ふわふわの葉がびっしりと巻いていました。新鮮なキャベツは中が黄色だそうです。

「天気、気温など自然が相手なので、それに合わせてやっていくしかありません。」とニコニコしながら語る下村さんからは、自然と共生してやれているという自負が感じ取れました。



【収穫体験】



【収穫直後のキャベツ】